

速 報

## 本学一期生の運動制限を伴う外傷、 障害及び疾患の既往症

木村一彦<sup>1)</sup> 宮地元彦<sup>1)</sup> 米谷正造<sup>1)</sup> 湯浅泰生<sup>1)</sup>  
小寺吉郎<sup>2)</sup> 小野寺昇<sup>1)</sup> 小野 恵<sup>1)</sup>

川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科<sup>1)</sup>  
川崎医科大学附属高等学校<sup>2)</sup>

(平成3年8月23日受理)

The Medical History of Freshmen with Limitation Exercise  
at KAWASAKI UNIVERSITY OF MEDICAL WELFARE

Kazuhiko KIMURA<sup>1)</sup>, Motohiko MIYACHI<sup>1)</sup>, Shozo YONETANI<sup>1)</sup>, Yasuo  
YUASA<sup>1)</sup>, Yoshiro KODERA<sup>2)</sup>, Sho ONODERA<sup>1)</sup> and Megumi ONO<sup>1)</sup>

*Department of Health and Sports Sciences  
Faculty of Medical Professions  
Kawasaki University of Medical Welfare<sup>1)</sup>  
KAWASAKI Senior High School<sup>2)</sup>  
Kurashiki, 701-01, Japan  
(Received on Aug. 23, 1991)*

**Key words :** freshmen, health check, limitation exercise

### 要 約

本資料は、本学の新入生に対して行った医師による運動制限の指示の有無、及び運動非実施期間に関する調査結果の報告を目的とする。

全学生のうち30人が、医師から運動を制限されたことがある。しかし、そのことは高校からの調査書にはほとんど記載されていなかった。医師への受診を示唆したところ、そのうちの一人は心中隔肥大によって運動を禁止された。

運動非実施期間に関して、全学生のうち46.4%が1～3月間運動を行っていなかった。また、全男子学生のうち39.0%が10月間以上運動していなかった。しかし、女子学生の場合では14%であった。これは、男女間の過年度卒業生の人数が異なるためである。

### 1. はじめに

本大学におけるいわゆる一般体育は大学設置基準と、学園の三つの基本目標の一つである「か

らだをつくる」をねらいとして全ての学生が履修している。本学の学生は、入学時において身体的要件を条件に選抜されたわけではないので、多様な健康水準の持ち主の集まりといえる。

一方、体育実技というまでもなく生体に身体的・精神的負荷を、学生が自らの能力に応じて加え、自己の能力の一部を発揚するところに意義がある。この負荷が同じ内容のものであっても受け手である生体の持つ個体差、あるいは同じ生体にあっても、その時々を身体的・精神的状態によって相対的負荷は異なることになる。<sup>1)</sup>一般体育実技で展開される内容は競技スポーツのトレーニングほどの強い負荷ではないが、特定の学生にとっては、それ以上の負荷になることがある。従って、授業は指導者と学生が相互にこのことを理解した上で進められなければ危険なものとなる。<sup>2)3)</sup>

一般体育実技担当者は学生の健康水準を知るべく調査・指導を行ったので、その結果を報告する。

## 2. 調査対象及び方法

本学に本年度入学した男子297名、女子491名、計788名の全員を対象に調査した。調査は質問紙法により体育実技担当者が4月の第1回目の授業の際実施した。

内容は、①これまでに運動制限など医師から受けた事項について、②本人が自覚する運動らしい運動を行わなくなっている期間、③その他、運動に対する意識やこれまでに経験した種目、運動部の活動などである。ここでは一般体育で重要な事故防止との関係から①及び②について報告する。

また、本学入学試験の際提出された高等学校からの調査書に記載されている健康の記録及び過年度高校卒業生の診断書も併わせて検討した。

## 3. 結 果

### 1. 運動制限を伴う外傷、障害及び疾患

「心臓病、腎臓病などにより、医師から運動制限の指示のある人はその病名と指示の内容をかきなさい。」という問に対して記入した学生は30名である。これは全学生の3.8%に当たる。(回収率, 100.0%)全学生の男女割合が男子37.6%、女子62.4%に対して、記入がある学生の男女割合は50%ずつと半ばしており、男子の割合が多い。また、いわゆる現役入学者の割合は全学生

Table 1 学生の届けた疾患類別件数と、そのうちの運動制限の件数  
高校からの調査書に記載されていた件数

| 疾患類別    | 届 出 件 数 | 運動制限件数 | 調査書記載件数 |
|---------|---------|--------|---------|
| 循環・呼吸器系 | 9       | 4      | 0       |
| 運動器系    | 11      | 5      | 2       |
| そ の 他   | 10      | 5      | 2       |
| 合 計     | 30      | 14     | 4       |

The number of student according to disease (self-report and official record)

74.7%、記入学生66.7%であり、記入学生は過年度卒業生の割合を多くしている。

表1は記入された疾患を類別し、そのうち医師の指示を記入した者の件数と、入試時に高校から提出される調査書の健康記録欄にそれらの記録がなされていた件数をみたものである。<sup>4)</sup>

呼吸・循環器系は9例である。そのうち循環器系の疾患は6例で、その中には心中隔肥大1例、不整脈2例、WPW症候群1例があり、不整脈の1例を除いて運動制限の指示がある。しかし、高校からの報告には1例も記載されていない。特に心中隔肥大の学生は過年度生であり、その入試時の診断書には異常なし、既往症もなしとの記載がある。調査後あらためて診断書の提出を求めたところ運動禁止の指示が医師より提出された。

呼吸器系は3例である。うち2例は気管支喘息、1例は自然気胸の再発で運動制限がある。高校からの報告はない。

運動器系のものとして先天性のもの、事故によるもの、スポーツ障害によるものなど11例があり、運動制限も5例ある。高校からの報告はわずかに2例である。

その他の系10例である。その中には次のものが含まれる。泌尿器系は3例で、いずれも腎臓系の疾患である。激しい運動の禁止1例、他の1例は高校からの調査書に記載がある。眼科的疾患の緑内障、無水晶体眼、1例は高校からの報告がある。耳鼻科的疾患3例はいずれも中耳炎で、うち2例は水泳を禁止している。これも高校からの報告はない。その他には腫瘍手術後

などによるもの3例も含まれる。運動制限2例、高校からの報告はない。

表には示さないが、入試時からの調査書ないし診断書に記載された件数は表1でみた4件のほか17件の計21件に過ぎず、これは全学生のわずか2.7%である。17名は運動制限がないものと意識し、調査に記入しなかったものと思われる。その内容はアトピー性皮膚炎3件、色弱など色覚異常4件、鼻炎2件、難聴2件、ポリオによる下肢の運動障害、顔面神経麻痺、義眼の使用、脊椎症、軟骨性外骨腫症完治、胃潰瘍完治である。

## 2. 運動非実施期間

受験生はその勉強期間、他の生活時間を割いて勉強に力を入れるため、健康的な生活習慣を実践することがはなはだ困難であることは予想されることである。そのため入学直後の時期は身体的な水準が低下していることは否めない。<sup>5)</sup>

その程度を知るために、表2に運動をしなかった期間を男女別、新卒・過年度卒別にみる。当然ながら新卒と過年度卒入学生では運動を行わなかった期間は異なる、新卒の者は1～3月間が56.8%と多く、4～6月間の26.1%と合わせると8割が夏休み以後運動を行わなくなっている。他方、過年度卒業生は1年とか1年半と記載する者が多いため6の倍数月で多くなる。新卒が22～24月間及びそれ以上が1.3%なのに対

して、過年度卒では16.6%にもなる。

女子は1～3月間が260名、53.0%で、続いて4～6月間128名、26.1%であり、そのほとんどを新卒が占めている。男子は一番多い1～3月間でも106名、35.8%で、次に多いのは10～12月間の44名、14.9%となる。10～12月間のほとんどは過年度卒で占められる。

22～24月間と24月間を越えて運動しなかったものは男子で27名、女子で14名である。新卒の最長期間72月間（6年）、過年度卒の場合156月間（13年）、192月間（16年）運動経験がないものも含まれる。

## 4. おわりに

今般の簡単な調査によっても、大学におけるいわゆる一般体育を履修する学生の4月時点での健康、体力水準は高校のときよりも低下し、その差は大きなものがあると推察される。<sup>6)</sup>

本学が加入した内外学生センターの災害傷害保健事故概況によれば、ここで補償されるものは名の通り災害傷害の場合に限られている。<sup>7)</sup>日本体育・学校健康センターでの補償は一部高等専門学校も含まれるが、主に高等学校までの児童生徒を対象としているものである。<sup>8)</sup>ここでは学校管理下でおこる疾病による障害、突然死も対象にしている。その統計によれば突然死は小学生10万に対して0.30、中学校0.64、高等学校

Table 2 性別過年度・新規卒業別非運動実施期間

| 非運動実施期間<br>(ヶ月) |      | 0  |      | 1—3 |      | 4—6 |      | 7—9 |     | 10—12 |      | 13—15 |      | 16—18 |      | 19—21 |     | 22—24 |      | 24— |     | 小 計 |     |
|-----------------|------|----|------|-----|------|-----|------|-----|-----|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-----|-------|------|-----|-----|-----|-----|
|                 |      | 人数 | %    | 人数  | %    | 人数  | %    | 人数  | %   | 人数    | %    | 人数    | %    | 人数    | %    | 人数    | %   | 人数    | %    | 人数  | %   | 人数  | %   |
| 男<br>子          | 過年度卒 | 11 | 7.9  | 18  | 12.9 | 7   | 5.0  | 0   | 0   | 38    | 27.1 | 15    | 10.7 | 25    | 17.9 | 2     | 1.4 | 19    | 13.6 | 5   | 3.6 | 140 | 100 |
|                 | 新規卒業 | 22 | 14.0 | 88  | 56.1 | 28  | 17.8 | 6   | 3.8 | 6     | 3.8  | 1     | 0.6  | 3     | 1.9  | 0     | 0   | 0     | 0    | 3   | 1.9 | 157 | 100 |
|                 | 小 計  | 33 | 11.1 | 106 | 35.7 | 35  | 11.8 | 6   | 2.0 | 44    | 14.8 | 16    | 5.4  | 28    | 9.4  | 2     | 0.7 | 19    | 6.4  | 8   | 2.7 | 297 | 100 |
| 女<br>子          | 過年度卒 | 4  | 6.8  | 13  | 22.0 | 2   | 3.4  | 0   | 0   | 23    | 39.0 | 2     | 3.4  | 6     | 10.2 | 0     | 0   | 7     | 11.9 | 2   | 3.4 | 59  | 100 |
|                 | 新規卒業 | 26 | 6.0  | 247 | 57.2 | 126 | 29.2 | 4   | 0.9 | 21    | 4.9  | 0     | 0    | 2     | 0.5  | 1     | 0.2 | 3     | 0.7  | 2   | 0.5 | 432 | 100 |
|                 | 小 計  | 30 | 6.1  | 260 | 53.0 | 128 | 26.1 | 4   | 0.8 | 44    | 9.0  | 2     | 0.4  | 8     | 1.6  | 1     | 0.2 | 10    | 2.0  | 4   | 0.8 | 491 | 100 |
| 全<br>体          | 過年度卒 | 15 | 7.5  | 31  | 15.6 | 9   | 4.5  | 0   | 0   | 61    | 30.7 | 17    | 8.5  | 31    | 15.6 | 2     | 1.0 | 26    | 13.1 | 7   | 3.5 | 199 | 100 |
|                 | 新規卒業 | 48 | 8.2  | 335 | 56.9 | 154 | 26.1 | 10  | 1.7 | 27    | 4.6  | 1     | 0.2  | 5     | 0.8  | 1     | 0.2 | 3     | 0.5  | 5   | 0.8 | 589 | 100 |
|                 | 小 計  | 63 | 8.0  | 366 | 46.4 | 163 | 20.7 | 10  | 1.3 | 88    | 11.2 | 18    | 2.3  | 36    | 4.6  | 3     | 0.4 | 29    | 3.7  | 12  | 1.5 | 788 | 100 |

\* The number and the rate of freshmen according to non exercise periods in Kawasaki University of Medical Welfare.

0.92と成長するにしたがって高くなる。高校で起こった突然死の95%は心臓系のものと報告されている。そのうち心臓系の既往症が事前に把握されていたのはわずかに17.7%である。<sup>9)</sup>

健康診断や調査の事後処理がなければ、その意義はないに等しい。<sup>10)</sup>著者らは慎重に軽度の負荷から授業を開始した。さらに今般の調査で外

傷、障害及び疾病があると記入した学生全員と面接し、特に必要と判断したものは再度医師の診断を求めるとともに、全員と体育実技の行い方を話し合った。その結果、入試時に知ることのできなかった心中隔肥大の学生1名の体育実技禁止者を把握できたことを報告する。

#### 引用及び参考文献

- 1) 小野三嗣(1986)「運動の個体差」「個体差」1版, 風溚社, 東京都, pp 45—46.
- 2) 木村一彦, 鈴木一正, 羽鳥好夫(1982)「学校管理時間外における児童, 生徒の救急医療への受診動向」日本体育学会第33回大会号, p 754.
- 3) 村山正博, 杉本恒明, 天野恵子(1990)「大学生における内因性急死」 「運動と突然死」1版, 文光堂, 東京都, pp 29—42.
- 4) 中村泰三 (1989)「新しい健康診断のあり方を求めて」学校保健研究 Vol. 31 No. 3, 115—121.
- 5) 曾根睦子, 天野洋子(1985)「高校生にみられる健康問題」保健の科学 Vol. 27 No. 2, 82—85.
- 6) 文部省体育局(1988)「体力・運動能力調査報告書」昭和62年度, p 16.
- 7) 内外学生センター(1990)「学校教育研究災害傷害保険事故概況」平成元年度, p 19.
- 8) 木村一彦, 羽鳥好夫, 鈴木一正(1981)「学校管理下の疾病の実態と安全会災害給付件数の関連について」日本体育学会第32回大会号, p 707.
- 9) 日本体育・学校健康センター(1991)「学校の管理下の死亡・傷害」平成二年版, p 221.
- 10) 是則隆一 「中学校心臓検診と管理指導のあり方について」学校保健研究 Vol. 30 No. 7, 311—318.